

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102618		
法人名	有限会社 彩華		
事業所名	グループホームひまわりの杜		
所在地	宮崎市潮見町50番J1		
自己評価作成日	令和3年9月20日	評価結果市町村受理日	令和3年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和3年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ 閑静な住宅街に立地され、交通アクセスも良い。
- ・ 近隣には緑豊かな緑道公園があり、季節を感じられる散歩コースとなっている。
- ・ 施設入居者や見学希望者の数名は近隣住民やその方々のご紹介も多く、見学から入所に結びつく等、地域交流も良好な関係が築けている。
- ・ 自治会に入会する事で、地区の防災訓練や清掃活動にも参加し地域の情報収集に努めている。
- ・ 毎日、安心して生活できるよう24時間対応の協力医と連携を取っている。また、薬剤師での薬管理で相談事がいつでも聞ける体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域とのつきあいでは、地区副会長が中学生の手紙を敬老の日に届けて毎年交流が行われている。オレンジカフェや青島、宮崎空港など馴染みの場所に行き支援に努めている。介護計画書のサービス内容について、介護支援経過表に毎日記録を行い、モニタリングを毎月行っている。病院受診は、職員が支援を行っている。夜間、利用者の対応では、協力医が来てくれる。月1回リクエストメニューを利用者に聞き昼食で提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し目標として掲げている。この理念はスタッフルーム、キッチン、職員トイレ等、いつでも目に付く場所に貼ることで職員の意識付けを行っている。	理念は、2年前に職員で作り上げた。「笑顔、楽しみのある生活」では、一日一回は利用者を笑顔にしようとレクリエーションで楽しく笑顔を引き出す取組を行っている。毎月職員会議で理念について話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加することで、清掃や研修に参加し地域住民と顔見知りとなり挨拶や情報交換に務めている。また運営推進会議には地区副会長や民生委員の方々も毎回参加され貴重な意見をいただいている。	中学生はが、敬老の日に手紙を書いて、地区副会長が届け、交流が行われている。小学生の職場見学の訪問が予定されていたがコロナ禍の影響で実施できなかった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区副会長、民生委員、地域包括支援センターの方々と連携を図りながら、地域の情報収集を行っている。また、地区総会に参加し施設の紹介や取り組みなど認知症の理解を深めていただけるような話の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月に一度開催し、施設の活動状況や入居者の状態を報告し、参加者の方々から率直な意見を聞くことでサービスの向上に繋げている。	コロナ禍で会議が実施できない。活動状況など郵送で報告し、意見を聞いている。委員からは、「外出の機会を多くしてほしい。」と意見があった。コロナ禍で実施できないが、貴重な意見として今後実施予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や包括支援センターには、ホームの問題点やアドバイスを受けながら連携を図っている。また、市が主催している研修会などにもできるだけ参加し交流を深めている。	介護保険制度の変更、介護保険証の更新について電話や訪問で伺い協力関係を築くように取組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し年4回の勉強会を行い情報の共有を行っている。当施設は、建物2階にあり、玄関を開けるとすぐに階段が設置してある為危険性が高い、入居前にご家族や本人には玄関施錠の説明を行い理解をいただいているが、時間をみながらの開放を行い圧迫感のない生活を支援している。	玄関に鍵がかかっているが、昼間の1時間開放している。身体拘束の3つの弊害やスピーチロックなどの勉強会を行って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回の勉強会を取り入れ、虐待が見過ごされる事がないように努めている。入居者に変化が見られた時には、すぐに話し合いを行い全職員で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、必要に応じて勉強会を行うようにしている。制度の必要性がある場合には地域包括センター等を活用し、運営推進会議で家族にも周知していただくよう呼びかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人やご家族の不安を尋ね、契約時には管理者及びケアマネの立会のもと説明を行っている。報酬加算や料金改定時には文章を作成し、説明、理解、納得の上で押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱を設置し苦情相談窓口のご案内掲示を行っている。また 運営推進会議や家族面会時には話し掛けやすいよう職員からの挨拶や声掛けを行っている。ご家族からの意見や要望には出来る限りの対応をさせていただいている。	家族からの意見、要望等は、月1回の職員会議で職員と検討し家族に伝えている。ポパイシート(連絡ノート)に記入し記録に残している。家族会で意見、要望等話し合う場があるがコロナ禍で実施できなかった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議には、代表者、管理者は必ず出席し職員の意見や要望を聞き、ケアの質の向上に努めている。毎月、代表者宛てに全職員が反省会資料を提出する仕組みになっており、個々の意見や要望を直接伝えやすい環境にある。	全職員が毎月、反省会資料に意見、要望等記入し代表者に提出している。新入職員が慣れない入浴介助で昼食時間が遅れるので11時から11時15分に変更して実施することとした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を含め、職員の日々努力や勤務実績、反省会資料の内容などを把握し賞与や昇給に反映されている。また働きやすい環境を作る為に、資格取得や勤務調整にも随時対応し、やりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の為に、毎月の職員会議には勉強会の時間を入れ、職員それぞれが勉強をしたい内容や入居者に応じた勉強を全職員に伝え技術や知識を身に付けている。また、必要に応じて施設外研修に応じた職員が参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会やケアマネ協会に入会し同業者との交流を図りながら様々な情報交換に務めサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に訪問や電話を行いし、本人や家族の意見や希望に耳を傾け、サービスを受ける際の不安や要望を引き出し不安解決に繋がるように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話連絡や訪問・面談を行いながら、家族の不安や要望に出来る限り応じられるように努力している。また、施設生活の中で出来る事を提案しながら、本人が困らない環境作りに努め信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事を受けた「その時」から、何を出来るかを見極めながら、ディサービスや有料老人ホームの案内も必要に応じて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは入居者と過ごしていく中で喜怒哀楽を共感しながら、家族のような暖かい関係作りに努め信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が入居者と疎遠にならないように、こまめに連絡し、現在の状態を理解していただいている。また面会時には職員と気軽に話をする機会も多く見られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人や知人の訪問や電話は随時受け入れている。施設内の電話はいつでも自由に使えるような体制を取っており、家族や知り合いに気兼ねなく電話をかけられている。月のドライブには懐かしい場所や馴染みの場所を巡るなど外出する機会を作るように努めている。	ドライブは、青島、宮崎空港、オレンジカフェなどに行っていたが、コロナ禍でドライブなど外出ができなくなった。家族、友人、知人からの電話で会話をし、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月、職員がレクリエーションを考えながら、入居者全員で取り組めるよう工夫している。入居者一人一人が孤立しないように簡単な役割りから難しい役割りを決め、全員で達成感を味わえるように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを個々の事情で終了しても、本人や家族が必要とされる関係機関へ連絡し、その後の暮らし方に活かせるようにケア方法・習慣・好み等をまとめたサマリーを作成し、いつでも連絡、相談が出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の言葉や行動を観察し、その人の想いや希望が出来るだけ叶えられるように努めている。それが難しい方には、職員や家族間で話し合い、その方の意向に添えるように努めている。	日常生活の中で、職員が思いや意向について、気づいたことをレクリエーション行事実施記録に記載し把握に努めている。その思いが実施できるように職員間で取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、本人や家族、ケアマネから情報収集し職員間にて情報共有を行っている。また、今までの生活環境や馴染みの暮らしを意識した支援が行えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別生活記録にサービス実践の様子や本人の言葉、表情、心身状態の変化を記録に残し職員間での情報共有を行っている。また重要な事柄は赤ペンで記入するなど、一目で分かるように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の様子に気になる事があれば記録に残し、必要に応じて計画書の見直しもを行っている。介護計画作成時には、本人 家族 主治医 管理者 介護職員の意見を聞きながら作成を行っている。	サービス内容について、介護支援経過表に毎日記録を行い、モニタリングを毎月行っている。毎月のセクション会議で職員からの意見を反映し介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録には、ケアプランの短期目標を掲げ、本人の発した言葉やケアの様子を記録に残し、職員間で情報の共有や計画作成の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間対応の主治医のもと、定期的な往診、予防接種、血液検査を行っている。また内服薬の管理を薬剤師に依頼する事で薬についての疑問点や副作用も職員や家族からも聞く事が出来る。歯科、皮膚科往診も個別に治療できる体制も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地区副会長、民生委員、地域包括支援センターに出席いただきアドバイスや情報収集を得ている。また、オレンジカフェや近隣散歩などで地域交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医や協力医の往診を支援する事で、安心して医療が受けられる体制が確立されている。家族対応受診が希望時には本人の状態が分かるように情報提供を行っている。家族受診時に職員が必要であれば付き添いを行い情報把握に努めている。	受診の支援は職員が行っている。受診後の家族への報告は、支援した職員が電話で報告し、職員は、個人記録に記入し情報共有を行っている。協力医は夜間でも往診に来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に変化が見られた際には、事業所内にいる看護師に相談し、24時間対応の主治医からの指示を仰ぐ、必要であれば往診及び受診同行できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療関係者に情報提供を行い話し合いの場を設けている。また入院中には面会や電話にて病院関係者との情報交換を行い、早期に退院できるように努めている。退院時には各関係者とカンファレンスを行い情報の共有、今後の介助方法などを話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を家族に説明し、事業所ができることを家族と話し合いをしている。また、段階に応じて、本人や家族の意見を聞くと共に医療行為の範囲を説明し理解していただき、主治医、施設スタッフ、関係者との連携にて支援をおこなっている。	看取りの勉強会は、看取りの方がいた時に行っている。看取りの段階に応じて主治医、職員、家族で話し合いを行い、内容を個人ケースに記入し情報の共有を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会にて、急変時や事故発生時について話し合う場を設けている。対応マニュアルや緊急連絡先をスタッフルームに掲示し迅速な対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設一階にあるディサービスとの合同訓練及び夜間想定避難訓練を年2回行っている。また災害対策委員会を作り担当職員が消防、非常災害対策計画のもと職員それぞれの役割を明確にし迅速な行動ができるようにしている。	地区の総会では、水害の時グループホームに避難が出来る説明を行い、備蓄品も多くある。避難訓練では、昼間を想定しディサービスと合同で訓練を行っている。しかし、消防団、住民の参加はない。	消防団、住民の方に訓練の時に来てもらい、グループホームの構造、利用者の状況など知ってもらい、今後の災害時の協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりに対して、職員は尊厳を持って声掛けや介助を行うようにしている。また、状態によって声掛けや支援方法を会議で話し合い情報共有に努めている。トイレ使用時や居室への勝手な出入りは禁止しノックや声掛けを行っている。	職員には、「利用者の部屋に入る時には、ノックしましょう。」「トイレ介助は、状態が安定している方は、ドアを閉め外で待ちましょう。」と日頃から伝え、職員は心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表情や行動を見ながら、その時々に応じた声掛けを行い、希望や想いを聞いている。また自己判断に迷う入居者には安心できる方へ促しながら自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりのペースを確保しながら臨機応変に時間日分を行っている。声掛けに拒否が見られた場合には時間を置いたり、職員を変えたり等の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣装選びや衣替えを職員と相談しながら行っている。訪問カットやカラーリングの希望も受けており、その人らしいおしゃれが出来るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた食事や盛り付けを工夫し美味しく楽しく味わっていただけるように努力している。季節の行事には、入居者と一緒に手作りの物を作成したりと、入居者の出来る能力が引き出せるように支援している。	月1回リクエストメニューを聞き昼食で提供している。昼食には、季節に合わせた、屋台の焼きそばなどを提供したり、月1回おやつはたこ焼き、カステラなど作り食べている。利用者は、テーブル拭きを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量をチェック表にて把握している。水分補給には本人に合わせて、お茶や水を飲む時間を決めると共に夜間時にはマグカップ等をベッドサイドに置き、夜間時の水分補給にも努めている。また、食事量が少ない方には主治医に相談を行い嗜好品や栄養補助食品を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人ひとりが出来る範囲にて口腔ケアを行っていただいている。職員は磨き残しが無いように付き添い、場合によっては介助に入るようにしている。また希望者には歯科検診や治療を受けられる体制作りをしている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「ひまわりの杜」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要に応じて声掛けや誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう自立に向けた支援を行っている。また入居者それぞれに合ったオムツやパットの使用を職員会議で話し合いをしている。	日中は、トイレで排泄介助を行っている。月1回オムツの種類、費用などの検討を職員で行っている。専門の業者に来てもらいオムツの検討も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の一つとして体操や風船パレーなど、身体を動かす運動を取り入れている。食材も工夫し野菜や乳製品を取り入れている。それでも便秘がちな方には主治医と相談し内服薬の処方をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴日を設け入浴支援を行っている。ひとり一人のタイミングに合わせ入浴順番を配慮しながら楽しんで入浴されている。入浴拒否がある方には時間をずらしたり声掛けの工夫しながら無理強いすることなく入浴されている。	立位が出来る利用者は浴槽に入っている。菖蒲湯、柚子湯など季節に合わせて行い、楽しむことができる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活習慣を理解しながら、日中の家事活動やレクリエーションを促すことで夜間の安眠に繋げている。昼食後にはお昼寝や浮腫みケアを取り入れる等、休息の時間も個々に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤飲や飲み忘れを防ぐために、職員及び薬剤師にて管理をしている。処方時には個々の生活記録に赤ペンにて記録を残し、全職員が理解と情報の共有が出来るようにしている。薬についての疑問や副作用と思われる症状があれば主治医や薬剤師に連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴に配慮しながら役割や楽しみを支援している。レクリエーションでのお茶会や楽しみ事を職員とすることで気分転換の一つにもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は、近くの緑道公園散策やドライブの外出支援を行っている。また家族との外出や外泊を楽しまれる方もおられる。	近所の緑道公園の散歩やドライブを行っていたが、コロナ禍の影響でできなくなっている。コロナが落ち着いた時には、再開できる体制である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望される方は、家族と相談を行い了承のもと所持されている。事業所管理を希望される方には、出納帳を作成し毎月家族宛てに支払い領収書及び金銭管理台帳を書面にて報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便箋、封筒、切手等を用意し、いつでも手紙を出せるように支援している。また、事業所内の電話を24時間自由に使用できるように支援しており、外部からの電話取り次ぎには個別の部屋で楽しく話ができるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い場所になるように環境整備を行っている。ホール壁面には季節に合わせた作品を入居者、職員で制作し展示している。照明や空調にも配慮し加湿器や空気清浄器を使用している。	壁面には、利用者と職員が一緒になり作成した季節の花や絵が飾られている。調理場から各部屋がすべて見れるようになっている。加湿器や空気清浄器を設置し温度、湿度が調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、ゆったりと座れるソファを置く事で気の合った方々で過ごせる場所作りをしている。ホール座席は性格や介助状態を考慮し、必要時には席を変える等の配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い込まれた家具や寝具、離れた家族をいつでも思い出せるように、写真や思い出の品々を置かれたり、一人ひとりが居心地の良い居室作りに努めている。	仏壇、テレビ、時計、家族写真、机、椅子など馴染みの物が持ち込まれて、その人らしく過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりができること、できない事を職員が理解し、その人の力に応じた行動を見守り、必要に応じて声掛けや支援を行うことで、安全に過ごせるように努めている。また、職員会議にて、現状に合わせた介助方法や環境整備の話合いを行い実践している。		